

一西だより



豊川市立一宮西部小学校通信
令和7年 1月 10日 第30号
発行;校長 村上謙一

【第1回 令和7年度のチーム担任制】

一人の子どもを、担任一人の個性で見取らず、多様な教職員で多面的に理解をして、子ども一人ひとりに個別最適な支援をすることができるチーム担任制。令和6年度は毎週水曜日を「チーム担任の日」として実践を重ねました。令和7年度はこれを一歩進めて、日常的な取り組みとします。このチーム担任制の詳細を、シリーズでお伝えしていきます。第1回目となる今回はその具体像として以下の8点をお伝えします。



- ① 3年生以上でチーム担任制をとります。つまり、これまでのように担任を固定しません。
- ② 1・2年、特別支援学級については従来通りの学級担任制を残します。
- ③ チーム担任制では学年教職員(以後、「チーム」と表現します)が交代で学級担任(以後「担当」と表現します)を務めます。
- ③ 4月の家庭訪問、1学期末懇談会、2学期末懇談会は、原則それぞれ異なる担当が行います。(1・2年、特別支援学級はこれまで通り)
- ⑤ 担当はチームの3~4人が、原則1週間ごとに交代します。週の担当の割り振りは学年通信等でお伝えする予定です。
- ⑥ 学級活動、出欠等の管理、アレルギー対応、連絡帳や学びポケットを使った家庭連絡は、その週の担当が行います。
- ⑦ ご家庭からのお問い合わせは、その週の担当がお受けします。「〇年生の先生お願いします」とお申し出いただければ結構です。また、ご指名いただいてもかまいません。
- ⑧ 通知表の各教科の評価・評定は各教科それぞれの教科担当が行います。各種所見はチームで協議して作成します。



これまでの当たり前を問い直す取組ですので驚かれる方もいることと思います。この計画は令和6年度1学期に学校運営協議会とPTA役員会のご承認をいただき、同9月2日に「一西だより」で保護者の皆様にお伝えしています。原案については令和5年度から教職員で練り上げてきた経緯があります。次号では、一西小はなぜチーム担任制をとるのか、についてご案内いたします。ご期待ください。

【マラソン大会保護者アンケート調査結果】

本通信でアンケート調査へのご協力をお願いした結果、17名から回答を得ました。ご協力ありがとうございました。集計結果は以下の通りです。

「開催の是非、企画を高学年が行う取り組みについて。」(1/7 集計)

- ・大変良い 35.3%
- ・どちらかといえばよい 35.3%
- ・どちらかといえばよくない 11.8%
- ・子どもの考えで進める方針に反対だ 17.6%



当日は欠席によるメンバー入れ替えによる発走順の変更などがあり、撮影をされる方にはご迷惑をおかけすることもあったようです。また、駅伝形式になったことで個人の順位がでなくなったことについては賛否両論があります。ランファン部門があるならば競技に参加しない選択肢は不要ではないか、順位付けされる経験も必要、大人が決めるべき、個々が選択した目標に向けて頑張る姿に感動した、子どもの生の声をもっと知りたい、保護者を呼ぶ必要はないのではないかなどのご意見をいただきました。ウェルビーイングな大会運営に向けて、子どもたちが当事者として取り組んだ今大会。この過程で子どもたちがつけた力は次の3つです。

- ① 当事者として課題に向き合う力。
- ② ウェルビーイングな最適解を生み出す力。利害が対立する、立場によって正解が異なるような課題を解決するには、互いの考えをリスペクトして合意形成を図る態度が欠かせません。
- ③ 決めたことに使命感をもち、みんなでやり遂げるエージェンシーがある行動力。

走って体力をつけることも大切です。行事を通して10年後20年後の社会で生きていくために必要な力をつけることも大切です。行事削減の流れの中でマラソン大会を廃止する学校が増えています。本校は開催するかしないかの判断も子どもに委ねました。走るのが得意な子はやりたい。苦手な子はやりたくない。立場によって正解が異なる「問い」がここにあり、対話を通して民主的な解決法を学ぶ絶好の教材になると考えたからです。また、関わった児童に当事者意識も生まれました。課題が残れば、それは失敗ではなく学びを深める機会となります。今年は高学年の児童に学びを深めてもらいました。あらゆる機会を通して、児童が学びを深めていってくれることを願っています。